FIWC関東
Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I. (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2002.1

参加者：田中祐也、伊藤祥江、佐塚あゆみ、小林武史、藤田準、小野浩平、高津阿礼、松長麻美、佐藤正明、藤澤真人、目黒美穂子、笠眉彦　以上12名

2002年1月19日（土）目黒鍼療院にて。

担当：田中祐也

ひとり芝居「地面の底がぬけたんです」東京5月公演（FIWC関東）

5月31日（金）

FIWC関東委員会では、元ハンセン病患者・藤本としさんの著書「地面の底が抜けたんです」を原作とした結純子（ゆい・じゅんこ）さんの一人芝居公演を企画しています。すでに昨年、京都・鳥取・大阪などで公演を行い、観客の間に静かな感動を呼んでおり、マスコミ各社もこの公演に高い評価を与えています。ちなみに大阪公演はFIWC関西委員会主催で行われました。

長島愛生園・邑久光明園と関わりのある結さん自身も「ライフワークとして演じていきたい」とおっしゃるこの芝居ですが、残念ながら関東近辺では大きな会場を使っての公演はまだ行われていません。仲間内で「関東でもやりたいなあ」と話していたところ、プロデューサーの木村聖哉さんから関東委員会に打診があり、有志が準備会を立ち上げました。

現段階で決定しているのは、

公演日時：5月31日（金）19時位から

公演会場：新宿文化センター小ホール（3F）

いずれも変更の可能性はありますが、ほぼ決定事項です。

ハンセン病問題に長く関わってきたFIWCですが、昨年来の問題解決への大きな流れの中、元患者の皆さんひとりひとりとの個人的なコミュニケーションの重要性を認識することとともに、このような文化活動の果たす役割をもう一度見つめ直すことが、最終的にハンセン病問題を社会に還元し、吸収させていくために大切なことなのではないでしょうか。

語り部として、藤本としさんと私たちをつなぐ、結さんの一人芝居「地面の底が抜けたんです」をより多くの方に見ていただきたいと願っています。

3月23日（土）の次回定例会ではさらに詳しい内容を発表できると思います。興味のある方は、是非とも定例会へ出席してみてください。

カンパ・チケット等のお問い合わせは笠眉彦まで

公演実現に向けてのスタッフも募集しています！

笠眉彦

撮影：太田順一

FIWC関東定例委員会報告

一人芝居「地面の底が抜けたんです」関西3公演、および関東での公演予定

2002.2.10（日）14:00宝塚市西公民館ホール

（問い合わせ：0797-73-0606）

2002.2.11（月・祝）19:00　茨木市ワムホール

（問い合わせ：0726-20-1686）

2002.2.16（土）10:50　京都会館第一ホール

（問い合わせ：075-222-3381）

4月には早稲田大学でも公演の予定あり。

勉強会「ハンセン病の基礎知識」開催（FIWC関東）

1月27日（日）

2002.1.27 17:00～19:00

ハンセン病に関する基礎知識について学ぶ勉強会を開催します。

一人芝居の企画には興味があるが、ハンセン病のことはあまりよく知らないからちょっと・・・、と思っている方むけに、ハンセン病に関する基礎的な知識を、2001年のFIWC関東委員会の韓国キャンプに参加して、現在看護の勉強をしている松長麻美さんに報告してもらいます。詳細は以下のとおり。

大まかな内容：ハンセン病とは、何故問題なのか、ハンセン病の歴史、何故今ハンセン病なのか

場所：学習院大学（JR目白駅すぐ）富士見会館404教室

西尾雄志

フィリピンキャンプ（FIWC関東）

3月1日～15日まで次回スタッフ予定の田中祐也、佐野一矢、高津阿礼を中心に、レイテ島に下見に行ってきます。多くのことを考えさせられたこの半年ほどで、度重なる延期がありましたが、ついにいきます！やはり、現地のことは現地に行かねば分かりません。1年ぶりのフィリピンになります。今回はワークではなくその準備の下見です。夏に開催できるよう頑張ります。その節は皆様にご心配をおかけしました。キャンプ開催の無事をお祈りください！　ぜひ、時間のある方、興味のある方は連絡ください。

田中祐也

（フィリピンキャンプの記事が4ページにもあります）

中国キャンプ（FIWC関西）

2002.2.19～3.1

2月19日から3月1日までの日程で中国でキャンプを行ないます。場所は広州（香港の近く）のヤンケン村で、ハンセン病回復者の方も43名暮らしている村です。参加費はだいたい7万円くらい（飛行機代込み）です。ワーク内容はシャワー室の製作や天井張り、トイレつくり、調理したおかずを保温するせいろ、コップやお箸を消毒できる消毒棚の製作などが候補に挙がっています。なお、去年のヤンケン村でのキャンプの模様はモグネットで見ることが出来ます。なお、現在カンパ募集中です(カンパに関しては別紙を御参照ください)。

追加情報→参加者募集は締め切りました。（1月24日）

連絡先：劉成道

西尾雄志

バングラデシュキャンプ（VHELA）

2002.2.11～26まで（先発隊は6日出発）

VHELAは現在バングラデシュを中心に活動している国際協力ボランティア団体です。昨年の9月のキャンプに引き続き、今年の2月にも第2回バングラデシュワークキャンプを行います。ワーク内容は前回同様、トイレ作り・かまど作り、それから今回新たにホーム

ステッドガーデニング（簡単な農作業）をやる予定です。それ以外にもフェスティバル・スタディツアー・バーベキューなど様々なイベントを企画しています。
連絡先：藤田準

夏以降もプロジェクトを継続しますので、なにかご質問があれば上記の連絡先まで
お願いします。
小林武史

ネパールキャンプ（SCI-Japan）

2002.2.19〜3.3
場所：ネパール、ティミ村
内容：障害児用の学校建設
参加者：日本からは12名（男性7名、女性5名）
今回のキャンプでは、前回から引き続き、障害児用の学校を建設します。学校は1階に3部屋、2階に2部屋ですが、前回のキャンプで1階の2部屋を作り、今回行くまでにネパール側が残りの1部屋を作るらしいので、今回私たちは2階の2部屋を作ります。
学校建設の他、ワークの合間に障害児達と運動会やピクニックなどもする予定です。
次回の定例会で、キャンプ報告を行います。
伊藤祥江

スリランカキャンプ（good!）

2002.3.7〜3.21
年末釜ヶ先でキャンプを行なったgood!が、今度はスリランカでのキャンパーを募集中です。詳しい事はグッドのホームページからも閲覧可能です。詳細は以下のとおり。
場所：スリランカ（モラトワ及び、サルボダヤの関係する村）
内容：「労働の分かち合い」を通して農村の開発を行っている、世界でも屈指のNGOであるサルボダヤの全面的バックアップにより、のどかな村でホームステイをしながら、村人とともにボランティアワークを含む様々な活動を行います。今回もスタッフ、参加者とも、若く、そして本当に様々な経歴の持ち主。一生つき合える仲間に出会える旅です。また、スタディートリップでは、ジャングルの中の遺跡も訪れる予定です！
費用：21万円（成田空港からの渡航費、現地プログラム費、諸経費を含みます）
協力団体：サルボダヤ
定員：25名
連絡先：good!

年度末活動報告会開催（FIWC関東）

3月23日（土）

2002.3.23
現在、FIWC関東委員会では、韓国とフィリピンでキャンプを主催しています。そして、それ以外にも、友好関係にある団体としてSCIジャパンやgood!、ベラなどの団体があり、活発に交流しており、定例会報告にも各団体の主催するキャンプ、その他のイベントのお知らせを載せるようにしています。しかし、友好関係にある団体が増え、バングラやらネパールやらとキャンプ開催地も増えてきている中、定例会報告を読んでいても、「何が何のことだかさっぱりわからん！」という声が聞かれるようにもなりました。

　そこで、年度末である3月に、各キャンプの活動を報告すると同時に、どういった経緯でいろんな団体と友好な関係になったのか、といったことなどを報告する場として、「年度末活動報告会」の場を持ちたいと思います。

　皆様お誘いあわせのうえ、ふるってご参加ください。
詳しい内容は以下のとおりです。
日程：2002年3月23日

FIWC関東定例委員会報告

場所：飯田橋ボランティアセンター
内容：各団体との友好な関係を結ぶようになった経緯、一人芝居「地面の底が抜けたんです」準備状況（FIWC関東委員会）、中国キャンプ（FIWC関西委員会）報告、FIWC関東委員会2001年度会計報告、その他、他団体の活動紹介など
西尾雄志

FIWC関東委員会広報部長選出

前定例会報告にて、広報部長を募ったところ、中村博志（フィリピンキャンパー）氏が名乗りをあげてくれました。中村氏には、今後メールなどを通した情報の発信、名簿の管理などの仕事をお願いする予定です。この定例会報告を受け取っている人も、何かお知らせがあれば（勉強会をしたい！　フリマをしたい！身の回りで何か面白そうなイベントがあるのでみんなと行きたい！　などといったことがあれば）、中村氏までメールにて連絡してくれれば、各キャンプに参加した人、各団体のメンバーへメールにて連絡をまわすことができます。中村氏のメールアドレスは以下のとおりです。
中村博志

フィリピンキャンプ現地駐在員派遣（FIWC関東）

―フィリピンキャンプ、もう一歩先へ―

―FIWC関東委員会初代フィリピン駐在員派遣カンパのお願い―

坂井領さんや小林真弓さんが先頭に立って、FIWC関東委員会がフィリピンのタラ村でワークキャンプを始めてから、今年で8年目を迎え、これまでに計9回のキャンプを実施してきました。現在も夏のキャンプ実施に向けて、総リーダーの田中祐也君を始め有志の4人が、春にフィリピンまで下見に行く予定です。

現在のフィリピンキャンプのキャンプ準備の形態は、現地の特定のNGOと提携して、キャンプを実施するのではなく、キャンプで知り合ったフィリピンの友人のつながりを通して、行われています。こういった形態をとることで、「組織の論理」にとらわれることなく、参加者一人一人の自発性が最大限発揮されるようなキャンプが実現しているように思います。

その反面、こういった形態だと、キャンプの準備や、キャンプ後の調査が大変です。現在は、キャンプ前に2回、10日程度の現地下見調査を行い、キャンプ後に次期キャンプの下見を兼ねて、前回のワークで作られたものが機能しているかどうかのチェックを行っています。

こういったあり方も、キャンプのひとつの方法にはかわりないのですが、FIWC関東委員会として、こういったキャンプ運営を今後も継続していくと同時に、それとはまた別のキャンプのあり方を探していってもいいのではないか、という段階にきているのではないかと思います。

それとはまた別のキャンプのあり方とは、年間2回の下見をもとにキャンプを準備するのではなく、現地に日本人のメンバーを一人置いて、その人にキャンプの準備をしてもらうというものです。現地にどっぷりと使った人間が一人いることで、現地の状況をよりよく把握できるようになるし、本当にその村で必要とされているのは何か、といったことにももっと敏感に対応できるのではないかと思います。

こういったことを考えている時に、4月からフィリピン大学に留学が決まった日下渉君が、この現地駐在員に名乗りをあげてくれました。彼は今までのキャンパーの中でも有数のフィリピン好き、フィリピン通の人間で、この現地駐在員の仕事の適任者です。

現地駐在員の人にやってもらおうと思っている仕事は、フィリピンのどこかの村でキャンプができないか調査してもらい、一年の任期中に3回程度のキャンプの準備をしてもらうことです。と同時に、キャンプ後、ワークで作ったものがどのように活用されているか、何か問題点はないかといった事後調査をしてもらい、日本へと報告してもらうことです。

こういったフィリピンキャンプのもうひとつのやり方に興味を持ち、現地駐在員を引き受けてくれた日下君を、FIWC関東委員会としても何らかの形でバックアップしていきたいと思います。そこで日下君のフィリピンでの現地駐在員としての必要経費のカンパを呼びかけたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

FIWC関東委員会初代フィリピン現地駐在員日下君を応援する会責任者

FIWC関東委員会委員長　西尾雄志

募金使途：現地駐在員の仕事をするにあたっての必要経費の補助

振込先：同封の郵便振込み用紙をご参照ください

モグネット
www.mognet.org
ワークキャンプの写真が満載！
ハンセン病関連の書籍も充実！
ワークキャンプ・イベント一覧アリ

フィリピン・現地駐在員：日下渉からのご挨拶

私は、フィリピン現地スタッフを引き受けることになりました日下渉こと、ぬけといいます。もともと今年からフィリピンに留学予定だったのですが、西尾さんから話を持ちかけられ、引き受けることにしたのです。まだあまり前例のない現地スタッフですが、私の考えでは、その役目とはワークキャンプの可能性を最大限に引き出すことであると思います。

私は、ワークキャンプには、もとより以下の三つの点で大きな意味があると思っています。まず、ワークによって実際に現地の人の役に立つという点。次に、キャンパー自身が楽しんだり、新しい体験をしたり、自己成長を遂げることができる点。そして、現地の人との間に人間関係、信頼関係を築くことができるという点です。だけど、現実的には様々な制約があって、学生を中心とした素人集団が、こうしたワークキャンプの潜在的な可能性を100パーセント引き出していくのは、なかなか難しい。

そうした中で現地スタッフの存在は、下見における時間的な制約、コミュニケーションにおける現地語能力の制約、あるいは現地の人々のおかれた政治、経済、社会、文化的な背景に対する知識の制約、キャンプ後のワークのアフターケアなどといった、キャンプを計画、実施する際の難しい問題を大幅に改善できると思います。そしてそれこそ、私が現地スタッフとしてキャンプに貢献できることだと思います。つまり、僕たちの情熱をより効果的に形にしていくのに、お手伝いできるのではないかというのです。日本でスタッフとなる仲間たちと密接に協力して、現地の人にも、私たちにとっても素晴らしいキャンプを創っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

日下渉

寄稿

委員長を一年やった！

―ボランティアのための集団論―　　西尾雄志

ちょうど去年の一月、みずから「委員長をやります！」と名乗り出た。

　めんどくさい事はわかっていた。

　何の報いもない事もわかっていた。

　そんなことを百も承知で引き受けて、何とか一年経った。

　名簿管理、発送作業、キャンパー募集のビラ貼りの手伝い、定例会報告の原稿書きなど、にわかには信じがたいほどのめんどくさい仕事とその量に、時折、ビビった。

　委員長としては至らない点ばかりで、そのくせ「作業にくる人が少なぁーーい！！」と時に怒りだし、関係ない人に数多く不快な思いをさせたこともあったが、いろんな人が文句も言わず手伝ってくれた。

そのおかげで、何とか一年、一年無事、委員長を勤める事が出来た。

今まで発送作業を手伝ってくれた方々、本当にありがとうございました。これからもどうぞ、よろしくお願いします。

こういった一年間の雑務を通して、ボランティアと言うものをもう一度考えてみた。

つくづくボランティアというものは、不思議なものだと思った。

ボランティアの根本は、「自発性」だ。

「やりたい奴がやる、やりたくない奴はやらない」

極めて簡単明瞭な原則に従ってなされるのがボランティアだ。

しかしこの簡単明瞭なボランティアの原則が、極めて奥深い。

ボランティアと言うものは、こういった自発性に端を発して初めて成立つものであるにも関わらず、こういった自発性ゆえに、「何かをやろう！」とする人間が、どんどん損な立場に追い込まれていくのだ。

これは各キャンプのリーダーを引き受けた人や、フリマなどの企画を言い出した人が、陥ってしまいがちな落とし穴のように思える。

せっかくリーダーを引き受けたのに、雑務は増える。周りからも、「ああだ、こうだ」という、問い質しの矢面に立たされる。失敗したら言い出しっぺの自分が責任を負わなければならない。言い出したのは自分だから、誰のせいにも出来ない。成功してもボランティアだから金銭的な報酬は一切、ない。

4年前、フィリピンキャンプのリーダーを引き受けた時、当時ワークリーダーを引き受けていた先輩の女性キャンパーに僕は愚痴った。

「リーダーやると、あちこちから訳の分からん文句ばっかりいわれる。そのくせ、雑務ばっかりだ。雑務のせいでバイトする時間もなくなった。そのせいで家賃も払えなくなって、五畳一間の男友達の家に居候するハメになった（その男との五畳一間の同居生活はその後、半年間続いた。長い間おいてくれてありがとう！）。付き合ってた女は、『キャンプとアタシ、どっちが大事なの？』と言う言葉を残し、僕から去った。気がつけば就活するのも忘れていた。僕はキャンプのリーダーを引き受けて、住む家と愛する彼女と、就職への道を失った！　キャンプリーダーって一体なんなんですか！！」

当時独身の先輩女性キャンパーは（その先輩はその数年後幸せな結婚をしました。おめでとうございます）、僕に向かって、やさしく苦笑するばかりだった。

リーダーや呼びかけ人という人たちは、自分が抱いていた思いとは裏腹に、こうやってどんどん損な立場に追いやられていく。思い入れが強いと言うだけで、自分の思いをもう一度実現したいというその一念ゆえに、めんどくさい雑務を負わされ、引き受けた活動の正当性を根本から問われ、精神的にも、作業的にも、大変なところに追いやられてしまう。

たしかに、自分が言い出した活動の正当性を問い直す事や、活動を遂行するにあたってこなさなければならに事務作業は、必要不可欠な重要な事だ。だけど、そういったことによって、いいだしっぺが損な立場に追いやられ、くじけてしまうようでは、ボランティアという活動が、その開始段階から、全く成り立たなくなってしまう。
これこそ、ボランティアの抱える決定的なジレンマだ。
「何かやりたい！」
その一念があるからこそ、人は自発的に仕事を引き受ける。
ボランティアとしてやっていこうとする。
だけど、その自発性ゆえに、人は損で、めんどくさい立場におい込まれていく。
ボランティアというものは、こういったジレンマを抱える存在だからこそ、「集団」と言うものを、丁寧に考えていかなければならないのではないかと思う。
「言い出しっぺ」がいないと、ボランティアは成り立たない。
「俺、リーダーやるよ！」というマゾ的人間がいないと、次のキャンプは開催できない。
そうは言っても、そういった人を取り囲む人たちが、彼らを損な立場に立たせつづけ、傍観している事は、人として信義に悖る。
そうやって損な立場に身をおく人を「支える」ために、人は集団を形成するのだ。
損をする事を百も承知の上で、損な立場をみずから引き受ける人を「支える」がために、人は集まり、集団を作るのだ。
FIWC関東委員会が、定例会報告の発送を通して「集団」というものを形成しなければいけない理由も、ここにあるのだと思う。
僕がFIWC関東委員会の委員長を引き受けたのも、キャンプに参加した人が、FIWC関東委員会という集団として、大きな希望を抱きつつ、百も承知でそんな立場を引き受ける「言い出しっぺ」を、少しでも応援できる集団でありたい、と思ったからだ。
去年、松本譲が、「数年ぶりに韓国キャンプを復活させたい」と言った。
FIWC関東委員会は、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。
今年松本譲が企画した韓国キャンプに参加した佐藤正明が言った。
「また来年、韓国でキャンプをやりたい」
FIWC関東委員会は、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。
同様に韓国キャンプに参加した松長麻美が言った。
「ハンセン病の問題をもっとみんなに知ってもらうために、ハンセン病の問題を勉強する勉強会をやりたい」
FIWC関東委員会は、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。
SCIのネパールキャンプに参加した宮本久美子が言った。
「ネパールの障害をもった子供たちの学校を作る費用を捻出するために、フリマをしてお金を作りたい」
FIWC関東委員会は、団体の垣根を越えて、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。
次回、FIWCのフィリピンキャンプのリーダーを引き受けた田中祐也が行った。
「今回の同時多発テロの事件を受けて、キャンプ開催国のフィリピンにもたくさんいるイスラム教徒のことをもっと知るために勉強会をしたい。それを知った上で次回のフィリピンキャンプをもう一度、考え直したい」
FIWC関東委員会は、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。
ハンセン病を病んだ女性の一生を描いた一人芝居「地面のそこが抜けたんです」を見た笠眉彦さんが言った。
「この一人芝居を一人でも多くの人に見てもらいたい」
FIWC関東委員会は、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。
フィリピンキャンプに参加した日下渉が言った。

「これまでと違った形のキャンプのあり方を模索するために、初代現地駐在員となってがんばりたい」
FIWC関東委員会は、そういった「言い出しっぺ」を応援できる集団でありたい。

団体や集団というものは、こういった人たちの切実な思いを、何とかして応援するために、存在するものだと思う。
どんなに大切なことを感じたとしても、一人でそれを実現するには限界がある。
そのためには、応援してくれる人が必要だ。
応援してくれる人は、少しでも多いほうがいい。
いろんな年代の人が、いろんな立場の人が、応援したほうが、誰かが感じた「大切な事」を、実現するために、より大きな力になる。
そんな「言い出しっぺ」を応援してくれる人たちの集まりが、FIWC関東委員会であればいいと思う。
現在のFIWCの言い出しっぺを、一人でも多くの人に知ってもらうために、あのめんどくさい定例会報告の発送作業が存在するのだ。
この一年、あんな紙切れ数枚の定例会報告で、3000円の年会費を払ってくれる人たちがこの不景気な世の中に大勢いたことに驚いた。
驚くと同時に、FIWC関東委員会に集う「言い出しっぺ」を、応援しようとしてくれる多くの人たちが、この国のどこかに確実にいることを実感した。
FIWC関東委員会は、今年も、多くのマゾ的な言い出しっぺと、それを支えてくれるモノ好きによって、多面的な活動を展開出来る団体であればと願う。
末筆ながら、年会費を下さったメンバーの皆様、本当にありがとうございました。今後の活動報告のために大切に使わせていただきます。感謝の意を込めて、昨年、年会費を納めて下さった方々のお名前をここに改めて掲載し、お礼に代えさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。
松本譲様、阿木幸男様、松下寿一様、和田昭子様、山岡聡様、内田実智子様、川田茂子様、足立陽子様、水沢寿郎様、鳥山和義様、森元美代治様、藤沢真人様、井木澤稔様、2001年2月フィリピンキャンプ参加者の皆様、2001年8月韓国キャンプ参加者の皆様
（[寄稿]委員長を一年やった！西尾雄志／終）

FIWC関東委員会会計より

年会費は3000円です。
以下の方より年会費をいただきました。（敬称略）
水沢寿郎、鳥山和義、森元美代治、藤沢真人、井木澤稔
ありがとうございました。

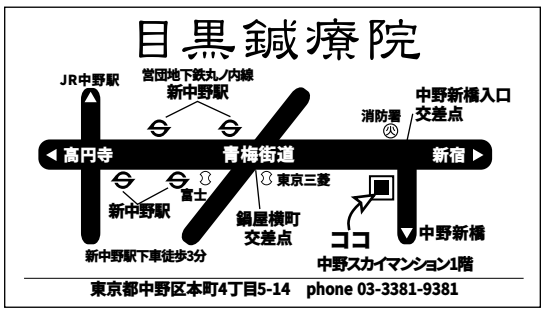
郵便振替 口座番号 00170-2-565117
加入者名：FIWC関東委員会

郵便貯金 記号10120 番号 00170-2-565117
口座名義：FIWC関東委員会

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

次回の定例会

2002年3月23日（土）、年度末活動報告会を兼ねて開催します。場所は飯田橋ボランティアセンターを予定しています。

フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関東委員会
委員長 西尾雄志
編集：茂木 亮　　mog@mognet.org

PDF版では電話番号などの個人情報を掲載しておりません。必要な場合は上記のまでメールにてお問い合わせください。